

令和元年度 学校評価 自己最終評価①

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

	評価項目	成果と課題	評価	改善策
教務部	教科指導	①学習意欲の個人差が大きく、生徒の学習活動が教員の主導によるところが大きい。課題等への取り組みも不十分で、学期末の学習指導対象の生徒も減少していない。 ②落ち着いた学習への雰囲気は成立しているとは言い難い授業があり、参観を含めた学級PTAを開く状況になった。様々な視点を踏まえた該当生徒への具体的な指導体制を整えることが急務である。 ③ふだん家庭学習を全くしない生徒が半数、考査前学習も行わない生徒が1割という状況に依然としてある。資格試験への取り組み等を起点として、自律的な学習者となる指導を行う必要がある。 ④本の押しつけという昨年の反省を生かして、生徒の主体性を重視したが、生徒によって取り組みに差がある。	2	①生徒が自発的学習に取り組むためには、学習の必要性を生徒自身が認識すること以外にはない。進路実現と学習習慣との関連性を意識させる、具体的な方策を行うことにより、長期的に改善させる必要がある。 ②授業を適正に管理できる教員の指導力向上とともに、分割やTT(複数教員での指導)など授業形態を見直す。 ③保護者への積極的な情報公開と、家庭学習の習慣づけの協力を求める(学級PTAや総会時での説明等)。 ④生徒の主体的な読書習慣を作ることを考慮して、一斉読書や放送を使った朝読書を行っていく。
		①基礎学力の定着と向上	①義務教育学力の未定着者は、依然として半数程度である。ただ、2年生では昨年に比べて20%程度減少する(9月時点)など学び直しによる学力向上が一部見られた。 ②授業内容が下位層の理解不足を補うことに偏りがちで、上位層の生徒を伸ばすことが難しい。進学や難関企業対策には、個別に添削指導を行っている。 ③考査後の訂正やレポート提出に対しては、学習内容の定着を図る上で全ての教科で重要視しており、粘り強く指導を行っている。 ④図書館係が減ったこともあり、興味関心を高める取り組みの充実が十分に図れなかった。	2

令和元年度 学校評価 自己最終評価②

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

	評価項目	成果と課題	評価	改善策	
生徒指導部	生徒指導	③基本的な生活習慣の確立	①基本的な生活習慣の確立には個々によって大きな差がある。できていない生徒も個々で話をすればしっかりしなければならないという自覚はあるが、集団となると緩んでしまう傾向にある。社会人となる高校生として相応しい対応、態度が身につけられるよう、粘り強い指導が必要である。	3	①生まれつきの特性、様々な家庭環境が要因となる場合もある。職員間で情報共有を図り、個に応じた適切な指導を検討する。一方で、毅然とした姿勢でダメなものはダメという職員一丸となった指導も必要である。 ②生徒会が実践している取り組みをサポートし、生徒間での自立心ある行動を促す呼びかけも推進する。
		④交通・問題行動の減少	①授業や実習、全体集会など様々な面で声掛け指導を実施した。また部活動や資格取得を中心に生徒個々の目標を掲げ、積極的に取り組むよう指導した。	3	①スマホ等による情報の多様化もあり、無知と自己中心的思考に偏る傾向がある。SHRや集会等で現在の学校の状況ふさわしい講話や、高校生として主体的に取り組む場を提供するなど工夫が必要である。
		⑤保護者・地域との連携	①生徒会が主体的に活動し、地域との交流を深められた。 ②保護者と面談する際に、学校からのお知らせが家庭に届かないというケースを良く耳にする。	3	①HPやSNSツールを用いた学校活動のお知らせなど、現在の世の中の諸ツールを有効利用することも学校の取り組みを知らせるうえで有効である。
		⑥不登校・いじめ問題への支援体制	①個別学習室を使って不登校の生徒の支援にあたっている。不登校になってからではなく、その予防として支援体制を組む必要がある。 ②職員研修の充実を目指したが、今年度は行事も多く十分な時間が取れなかった。 ③仲間づくりや差別を許さないというテーマでLHRを設定している。いじめを考える週間では図書委員による読書活動も行った。	2	①担任と密に連携をとることで生徒の把握に努め、先手の対応で支援にあたる。 ②来年度は生徒理解や生徒支援を組織化することで、生徒理解を進める。

令和元年度 学校評価 自己最終評価③

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

	評価項目	成果と課題	評価	改善策
進路指導部	⑦進路意識の高揚	<p>①進路指導室前に、進学（学校説明会・オープンキャンパス）・公務員・就職試験関係の情報を掲示しながら、担任を通して情報提供を行うことができた。また、進路指導委員が中心となった求人情報の発信（各クラスへの求人票の配布）を適宜行うことができた。進路に対する意識の差が個々で見られた。</p> <p>②係会の実施により生徒情報を共有しながら指導を展開することができ、個別面談も充実させることができた。3年生が中心となってしまい、1・2年担任の先生方との連携が弱く、その結果個別面談も不十分となった。</p>	3	<p>①生徒理解や進路指導に関するスキルを向上させ、進路情報をより共有化できるようにする。</p> <p>②各学年との情報を共有できる機会を設定する。</p>
	⑧職業観・勤労観の育成	<p>①専門性や進路を意識した就業先を選択するよう指導した。今年度も厚生労働省主催の就職ガイダンスで事前学習を行い、就業への意識を高め、充実したインターンシップを実施することができた。</p> <p>②合同LHRや2・3年生対象の就職・進学合同説明会、3年生対象の面接指導ガイダンスなどを実施した。1・2年生を対象とした県産業立地課主催の県内企業説明会、出水市産業振興部シティーセールス課主催の市内企業説明会の実施した。</p>	3	<p>①個別面談を充実させながら企業の選定をし、企業との連携を密にしていく。</p> <p>②ガイダンスの内容・実施方法を綿密に検討する。</p>
	⑨進路実現	<p>①3年担任を中心に各科の協力をもらい、SPI・一般常識試験対策や面接指導を行った。特に就職を希望する生徒に対しては、進路指導部による評価面接を2回実施し、その際にも個別面談を行った。</p> <p>②3学年担任に職場訪問を計画・実施している。生徒の希望に応じた職場開拓が中心となるが本年度は訪問した企業数が少なくなった。</p> <p>③就職対策協議への参加や職業安定所の訪問を通して、情報交換等を適宜行い、協力体制を整えることができた。</p>	3	<p>①昨年よりも求人数が増えており、企業の来校数も昨年を超えている。卒業生の職場定着指導を含めた職場訪問の計画が必要である。</p>

# 令和元年度 学校評価 自己最終評価④

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

	評価項目	成果と課題	評価	改善策
保健部	⑩生徒の健康管理	<p>①各種検診や講話などは円滑に実施し、結果は保護者に知らせることができた。行事精選で、救命法講習を1・2年生のみ実施した。</p> <p>②治療率は3年生など一部改善がみられたものの、依然低いままであった。</p> <p>③今年度はインフルエンザの罹患が多かった。</p>	3	<p>①講話は、毎年同じでなく、さまざまな講師に依頼するなど検討が必要。</p> <p>②検診を受けての治療を進路などから改めて指導するなど、何らかの手立てをしなければならない。</p> <p>③手洗いうがいやアルコール消毒、換気など徹底をする。また、新たな感染症に関しても情報共有する。</p>
	⑪生徒の体力づくり	<p>①90周年記念体育祭など、全職員・生徒の協力により、雨天などもあったが、対応しながら実施することができた。</p> <p>②積極的に体を動かす生徒が増えてきている。</p>	3	<p>①体育祭に関して、対抗戦の形の検討や種目の見直しを行うなど、改善していく。</p>
	⑫安心安全な環境づくり	<p>①特に大きな問題はないが、安全点検簿を廃止することによって、係りとしての仕事量は減少したものの把握できなくなった面もあった。</p> <p>②窓ガラスの破損が数件あった。</p> <p>③特に問題はないが、実際の緊急時に迅速に対応できるかが課題である。</p>	3	<p>①来年度は安全点検簿を作成する。</p> <p>②道具の正しい使い方の徹底。</p> <p>③特になし。</p>
工業科	⑬教科指導充実	<p>①職業教育を行う専門教科はもとより、普通教科においてもキャリア教育の視点から授業を展開している。今後は、キャリア教育全体計画や年間指導計画に基づく授業評価や改善が必要である。</p>	3	<p>①キャリア教育全体計画や年間指導計画に基づく授業評価の実施や改善を行う。それに伴い、次年度のキャリア教育全体計画や年間指導計画の見直しを行う。</p>
	⑭ものづくり教育	<p>①ものづくりコンテスト鹿児島県大会においては、木材加工部門で最優秀賞と優秀賞、旋盤作業部門で優秀賞に選ばれた。</p> <p>②工業部会実施の教職員実技講習会にも延べ人数10名以上の先生が参加し、ものづくりの技能を高めた。着実にものづくりの知識・技能の伝承が行われている。</p>	3	<p>①今年度のものづくりコンテスト鹿児島県大会への出場が建築科と機械電気科機械コースのみとなった。次年度は全学科・コースが参加できるようにしたい。</p>
	⑮資格取得への取り組み	<p>①1年生全員受験の丙種危険物取扱者試験の合格率が約60%と近年で最も低い状況だったが、第2種電気工事士合格者前年度比168%増となった。資格取得については学科・コース間格差が大きく出ている状況である。</p>	3	<p>①各学科・コースで資格取得の意義を明確にし、指導体制を強化する必要がある。</p>

令和元年度 学校評価 自己最終評価⑤

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

	評価項目	成果と課題	評価	改善策
工業科	工業教育 ⑯各種行事参加	①建築科においては、建築士会主催の現場見学会への参加、機械コースにおいては地元企業と連携しながら工場見学会・溶接技能講習会・資格取得講座などを実施した。地域と連携しながら教育活動を展開することができた。 ②翔工祭での出工パーク（各学科の特色を活かした体験イベント）、中学校での出前授業、北薩地区専門高校フェスタでの実演など、各種イベントを通して各学科の教科内容や取り組みを情報発信することができた。	3	①今年度は多く学校行事等があり、大きな職員負担となった。より効果の高い活動を厳選するためにも、キャリア教育の全体計画を見直す必要がある。
関連分野	全般	⑰社会に貢献する人材の育成及び生徒募集	3	①情報共有や共通理解を図り、協力体制を推進し組織力の向上を図る。 ②生徒会活動や生徒指導等を通して、自主性や自己指導能力の育成に努める。 ③学力測定ツールの活用による基礎学力定着のサイクル構築を推進する。
		⑱教育環境の整備	3	①週番による点検結果のフィードバックを確実に言い、教室の環境整備に努める。 ②安全点検簿による点検を行うよう点検方法を改善する。 ③進路指導と生徒指導、教科指導の更なる連携を図り、学力低下や今後の景気後退に対応する。
		⑲情報セキュリティポリシーの遵守	3	①年度初めに文書管理の周知徹底と定期的な確認を行い、規定に基づく管理と保管及び廃棄を徹底する。 ②文書管理規定に基づく文書の保存・廃棄を徹底する。
		⑳服務規律の確保と資質の向上	3	①取組がマンネリ化しないよう、新たな方法や情報提供に努める必要がある。 ②働き方改革や学習指導要領の改訂に伴う教育活動の見直しを通して、使命感や規範意識を改めて考えていく。